

資料6 外国人の協働体完全参加を目指して

—堺・泉北教会の体験からの提案—

1. 外国語ミサの活用

- [目的]
- ・ 母国語の祈り、ミサを捧げる権利の実現。
 - ・ 小教区共同体との交わりと完全参加のための基礎となる外国人コミュニティ作り
- [方法]
- ・ 月一度、英語ミサを午後行う。月一度、国際ミサ(多言語を用いるミサ)を小教区のメインのミサで行う。
 - ・ 英語ミサ後、お互いの交流をはかり、また皆でする具体的な作業としては国際ミサの準備(朗読、歌の練習など)をする。
 - ・ 国際ミサの前日は、日本人と一緒に典礼の準備をする。
 - ・ 連絡を取れるように、名簿を作成する。
- [実施の結果]
- ・ 外国語の朗読や歌が入ることによって、日本人信徒の意識が少しずつ変わっていった。⇒共同体にはいろいろな国の人がいることを認める。
 - ・ 外国人同士もお互いを知ることによって、普段の日曜日のミサにも積極的に参加しはじめた。⇒話し相手がいることの重要性。
 - ・ しかし、ミサに外国語が入ったというだけでは実際に人の交流があまり促進されないという現実もあった。⇒実際の交わりに向けた次のステップの必要性があった。

2. 国際交流の日設定

- [目的]
- ・ 実際的な交流(人の交流、その国の文化や状況を知る)をはかる。
 - ・ その日以後の共同体つくりの出発点にする。国際交流の日の典礼をきっかけに小教区の刷新をはかる。
- [方法]
- ・ 年一度、堺、泉北合同で「……の日」を決め、典礼(ミサ)から始めてほぼ一日を使って食事、文化交流などをする。
 - ・ 96年6月「コンゴの日」
 - ・ 98年3月「フィリピンの日」
- [実施の結果]
- ・ 実施するために、両小教区の典礼部、企画部などがその国の人と一緒に作りあげていったので以後、委員会に外国人の人が参加しやすくなった。
 - ・ コンゴの典礼は踊りが入るなど、全く異なった雰囲気皆とても喜んだ。
 - ・ 「コンゴの日」では生きた典礼の有り方について学べたが、せっかく覚えた歌も普段にはとても使えず残念だった。フィリピンの日に向けた典礼の準備では特に歌などは今後も使えるように工夫した。
 - ・ フィリピンの日の準備としてバンブーダンスなどを子どもも含めた希望者で練習したが大変良い交流になった。
 - ・ このように目的がはっきりした企画ができたことは、バザーを含めた今後の教会行事の有り方に大きなヒントを与えてくれた。

3. シェルターによる外国人受入れ

- [経過]
- ・ 国際協力委員会からの要請でシェルター(一時的な避難場所)の提供を評議会にかけて了承された。
- [結果]
- ・ これまで、いろいろなケースの外国人が訪れたが、そのことが小教区内で次第に当然のこととして受け入れられていった。
 - ・ 差支えないケースでは出来るだけその状況を信徒に説明するが、そのことによって多くの人が日本社会の問題点に気付かされたり、また思わぬ協力者が得られるなど多くのメリットがあった。
 - ・ 個人の関心ではなく、共同体として関わる大切さを体験している。

4. 個人ポストの設置

- ① 日本の教会では転入・転出などが書類によって厳密になされる傾向があるが、特に滞日外国人の場合、短期間しか所属しなかったり、名前を公表したくないケースなどがあり、共同体のメンバーとして受け入れられにくい状態がある。そのことはまた、本人も教会への帰属意識を持ってない原因にもなっている。自分のプライベートなポストが得られることによって教会のメンバーであることを実感でき、教会からのインフォメーションも他の信徒と同じように受けられる。

- [方法]
- ・ 信徒が通常教会維持費の袋やニュースを受け取るために与えられているポストをすべての外国人にも作る。
 - ・ ポストは自己申告形式で作られる。一時滞在でも可。
 - ・ 名前はニックネームでも良い。名前のところに言語欄を設け、出来る範囲でその言葉でインフォメーションを入れる。
 - ・ ポストには維持費袋も入れる。不定期でも、また金額にもこだわらずに入れてよいことを説明する。⇒自分も教会を支えているメンバーの一人であることを自覚できることになるだろう。
 - ・ 尚、このポストの考え方は学生にも求道者にも当てはめることも出来る。

5. 小教区における国際協力グループ(委員会)の設置

- [役割]
- ・ 外国人の共同体完全参加を実現するために奉仕する。
 - ・ 教会ニュースや毎週のお知らせなどのインフォメーションを訳す。
 - ・ 外国人コミュニティの意向を小教区に伝える。⇒外国人の評議会、委員会傘下に際しての言葉のハンディをサポートする
 - ・ 生活相談。日本語の勉強。話し相手
 - ・ シェルターに出来る外国人の生活のサポート。
 - ・ 教区の国際協力委員会との連絡
- [設置方法]
- ・ 上記のような役割があることを知らせ、どの分野でもいいから協力したい人を募集する。
 - ・ 集まった人を役割ごとに小グループに分ける。しかし、全体としてゆるやかにでもつなげておく。全体で時々集まり、具体的な打ち合わせの他に、学習会的なことも行い、理解を深める。